うに，「材料フォーラム」の参加者の多くは大学や大企業の研究者ではない。中小企業の研究者，営業担当者あるいは社長であったりする。このような参加者が「材料フォーラム」に期待するものは，最先端の研究成果の伝達ではなくて，日常の生産活動における問題点の解決策であり，生産活動に直結する情報の提供である。難解な専門用語を多用した講演よりも，できるだけ分かり易い基礎的な講演が好まれる。また講演から何かを得ようとする人よりも，施設の見学によって自社の生産設備の改良につなげたいと思っている人が多いのである。

このような意見などを考慮して，最近の「材料フォーラム」は次のことを原則として運営されている。:(1)できるだけ共通の話題をテーマとし，専門外の人でも理解できる分かり易い講演とする。(2)施設見学を同時開催する。(3)出欠は自由にして，強制的な人集めはしない。最近では，武生市の刃物会館を会場とした「刃物の話」の講演と，隣接の刃物団地の見学を行い，45名の参加者があった。「材料フォーラム」は極めて好評であり，回を重ねる度に参加者が増加する傾向にある。今後一層活発化することを期待している。

就職担当始末記

田中　紘一
(長岡技術科学大学工学部)

2年間に亙り，就職担当を務めてきたが任務がやっと終わりほっとしている。私が就職の面倒をみたのは機械系の修士学生約90名，学部学生約20名で，100名を越える。特に，この2年間はバブル時代とは手のひらを返すような様相を呈し，就職難の時代となった。我々の年代の者からみるとこの程度の就職難は当り前と云えるが，学生にとっては想像もつかぬことであったようだ。それだけに学生は必死であり，就職担当教官としてはやり甲斐があったと云えよう。企業の採用担当者も，構造改革の先行きが見えないため，雇用に関して非常に慎重な状況においては，企業と大学の双方の本音と実力が露となった。

さてその戦績であるが，我が大学の機械系においては推薦を出した学生の70%が第1志望の企業に採用された。この戦績は他大学の教官に聞いてみた限りでは，上々の部類に入っていると自負している。この要因として，我々の大学における実学を重視した教育方針が企業に一定の評価を得ていることが第1に上げられる。我々は修士課程に進学する学生に対し，学部4年次に卒業研究の代わりに5ヶ月間の企業への実務訓練を課している。機械系としては学生を60社以上の企業に派遣しているので，多くの企業の人事担当者に対し我が大学の学生は馴染みがあるという直接的な利点がある。しかし，それよりも学生が実務訓練を通して，企業を実感できたことが就職先の選択に対して大いに役だっているという間接的な利点が大きい。就職合格率と学生の資質との関係を分析してみると面白い。合格率と学業成績とはそれほど強い相関はない。我々の大学では英語のOral Communicationを重視し，全学生にPre-TOEFLを受けさせている。その平均点は云うも恥ずかしいほど低いのでここでは述べないが，その成績と合格率とは強い相関があった。この理由ははっきりしないが，TOEFLは英語の学力というより何らかの感性をテストしたことになったのかも知れない（例えば山勘のような)。不合格学生を出す研究室も大体決まっており，学生の就職合格率と指導教官の実力はかなり強い相関があるとみて良い。駄目教官の研究室の学生は，自分の行っている研究内容をきちんと説明できない。また，的確な企業を志望できてないようである。逆に求人に来る企業の優劣も一目で分かる。これは企業の規模に全く関係ない。将来性のない企業ほど既存の価値観に拘り，学生の成績や大学の偏差値を重視するようである。

【編集あとがき】

斎藤　喜一
(福井工業大学工学部)

日本鉄鋼協会の北陸支部には今年より長野県が加わり，日本金属学会と同様に長野，新潟，富山，石川，福井の五つの県で構成されることになった。尤もこれまでの北陸支部といっても，元々長野県在住の会員の方々の多くは日本金属学会にも属しておられ，また支部の諸行事はいつも日本金属学会と一緒に行われて来たし，どちらの会の会員の方々ともお互い皆顔なじみでもあるので，その所為か取り立てて特に新支部誕生と言った改まった感じがしないのは筆者だけであろうか。今回支部だよりの編集を仰せ付かった時，そういう意味でいつも一緒に話しをさせていただいている長野県の会員の方々のお気持ちをどのように反映させたら良いのか随分と迷ったが，冒頭のように長野県を加えた北陸支部として新しく発足することになり，安堵している。これからの支部の活動にも一段と弾みがつくものと確信している。この支部だよりに信州大学の小林先生からもご寄稿をいただくことが出来，お陰で充実した内容となり感謝している。

終わりにご多忙中にも拘らずこの支部だよりにご執筆を快く引き受けて下さった会員の皆様に心から御礼申し上げます。